

3月10日(水)

Neonatal Dept in Singapore General Hospital

報告:古積麻衣子

---

①新生児病棟回診

低出生体重児の便の色をみて胆道閉鎖症の有無を確認し、議論していました。

②「両親教室」

海外研修でぜひ見学したいとかねてから興味をもっていた「両親教室」に同席させていただくことができました。これは、出産を間近に控えている両親を対象にしたもので、新生児の世話のしかたを実演や紙芝居をまじえて看護師がわかりやすく説明していました。

講義の内容はどれも大事なことばかりで、ミルクの回数、ワクチンの種類と接種間隔、出産・退院後に児にどんな異常があれば最寄の病院へ連れて行くべきかという内容にまで及びました。

これから親になろうというお腹の大きな妊婦さんと旦那さんが熱心に聞き入っており、疑問点は活発に質問していました。）

③乳児健診の外来

健診外来を見学しました。1～9か月くらいまでの乳児と母親が（たいていは夫婦で）診察室に入ってきました。追視の有無、聴力、手指の巧緻運動などを新生児科の先生は手早く評価していきました。小児の月齢・年齢ごとの発達を評価する指標（人見知り、二語文、つまみ動作、ブロックを積める年齢など）は日本と同様でした。

外来カルテは電子化しており、X線写真もパソコンの液晶で確認できます。画像の部分拡大も可能です。シンガポールも日本もこれからは paperless の時代なのでしょう。

④National Cancer Center での研究会

私が腫瘍学に興味をもっていることから、National Cancer Center で研究会があることを紹介していただき出席しました。切除不能な進行肝細胞癌に対し分子標的薬の sorafenib が生存率を延長させたという臨床試験の話をお聞きしました。（日本では腎細胞癌にのみ適応があった sorafenib が、肝細胞癌にも適応が拡大されて日が浅いと記憶しています。）